

## 呼び戻そう、若者を

待望の春が来た4月下旬、満開のカタクリを見に、浅虫温泉の湯の島へ渡った。島の斜面いっぱい咲くカタクリの花は、少しばかり妖しげで、美しい。

それにしても、カタクリの咲き誇る湯の島では、20歳代の若者の姿を見かけることがほとんどなかった。見物客の多くは中高年層や高齢者だ。

青森の今どきの若者には、花をめぐるたしなみがないのであろう。カタクリ祭りに若者がいなくても、不思議ではない。

ただ、湯の島の散策道は、年配者が訪れる景勝地にしては傾斜がややきつく、決して上り下りが楽ではない。ハイキング場所

としては、むしろ若者向きであり、デートスポットにふさわしい。でも、デート中らしき若者を見ることは、ついぞなかった。

青森県人口の年代別分布をみると、20歳代前半の人口が、前後の年代に比べて少ない。人口ピラミッドは、縦長のアイスクリームコーンの上にソフトクリームを乗せたかのような形になり、手でコーンを持つ箇所がくびれて細くなっている。

これは、県内の高校や大学を卒業した世代の多くが県外で就職するからだ、と説明される。このことを、当県は若年労働力の供給源で人材の宝庫だ、と呼べば聞こえはよい。しかし、若者に十分な働き口を提供

木下智博・日銀青森支店長

できていないことの裏返しだ、と考えると、一経済人として忸怩たる思いだ。

その一方で、当地が20歳代の若者をひきつける魅力は十分であろうか。若者向けのおしゃれなスポットや楽しいイベントが、豊富にあるわけでもない。

3月に出張した秋田市では、土崎港湾岸エリアに東北一の高さと眺望を誇るセリオタワーなど若者が楽しめる施設が建ち、デートスポットになっている。あるNPOから「恋人の聖地」と認定されたそうだ。当地でも、若い男女の訪れるデートスポットが、もう少し増えたほうがよい。

カタクリの花言葉は、初恋、嫉妬、情熱を意味するらしい。中年のオジサンらしい古臭い考えと笑われそうだが、魅力あふれるデートスポットが若者を呼び戻し、地域の情熱の源になるのを期待している。